

10月



令和7年 10月1日
佛教大学附属こども園



「仏教保育 10月のねらい」
どうじきょうりよく
同時協力

「ぼくも」「わたしも」

「同時協力」（お互いに助け合おう）と聞くと、困っているときに助けの手を差し伸べることを想像されるかもしれませんが、でも、「お互いに助け合う姿」は園生活の日常において、さまざまな場所で見られます。

3歳児の保育室での出来事です。窓のそばに虫がいるのを子どもたちが見つけ、「先生、虫がいる!」の声が聞こえてきました。担任は他の子の話を聞いていたこともあり、（危険な虫ではないことを確かめて）「チクって刺す虫ではないから大丈夫だと思うけれど、今先生はすぐには行けないの。」と伝えました。

すると・・・

まず A ちゃんが「いいこと考えた!」と虫捕り網を持ってきました。

次に B ちゃんがかごを持ってきました。

今度は C ちゃんがビニール袋を持ってやってきました。

そして D ちゃんがトングを持ってきました。

最後に E ちゃんがカップをもってやってきました。

まるで絵本の一場面のような光景です。

この時、初めに虫が気になった幼児は一人だけでした。他の子はそれぞれ違う場所で遊んでいたのですが、友だちの声や動きに気づき、関心を持って自分から近くにやってきて、状況を見守るようになっていたのです。

そしていつしか「虫を捕まえない」という共通の目的を持ち、それぞれが友だちのしていることを見て、試行錯誤し始めたのです。すぐに大人が解決することは簡単ですが、少し距離を置いて子どもに任せてみることで、子どもたちはいろいろなことを考えるのですね。担任もまさかこんなにもたくさんのアイデアが出てくるとは思っていませんでした。

このエピソードで驚くのは、3歳の子どもたちがそれぞれ自分だけの方法を見つけ、虫を捕まえることに参加しているところです。改めて日々の保育の中で、一人ひとりの個性を大切にすることの重要性を感じます。一人ひとりの「どうしたいのか」「どうありたいのか」を受け止めることが、自分らしく取り組むことにつながり、そのことが他者との違いにも気付くことにつながるのではないのでしょうか。協力するということは、必ずしも同じ方法ばかりではなく、それぞれの方法で力を合わせることもできるのだと子どもたちが教えてくれています。

副園長 村上真理子

